



TITLE:

表紙ほか

AUTHOR(S):

CITATION:

表紙ほか. 京都大学言語学研究 2002, 21

ISSUE DATE:

2002-12-25

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/87824>

RIGHT:

京都大学言語学研究

第21号

論文

| | | |
|---|------------------|-----|
| Займованые слова в долганском языке (Обзор проблем) | Marek STACHOWSKI | 1 |
| Two ethnic languages of the Ma'a people —A sociolinguistic approach— | Maya ABE | 25 |
| ケレウェ語のテンス・アスペクト形式と接触による変容 | 小森 淳子 | 51 |
| 中期朝鮮語における '-enyr について —-genyrとの対照を中心に— | 勝木 初美 | 87 |
| 「漂民対話」の朝鮮語 —その虚構的側面— | 岸田 文隆 | 109 |
| 「インタラクシヨンの文法」に向けて —現代日本語の擬似エビデンシャル— | 定延 利之 | 147 |
| 瞬間動詞「知る」の振舞 | 大浦 真 | 187 |
| チャック語の音声に関する考察 | 藤原 敬介 | 217 |
| ゲシツァ語における動詞の人称表示システムについて | 白井 聡子 | 275 |
| ロロ＝ビルマ祖語 *?が現代チノ語に与えた影響について | 林 範彦 | 311 |
| ドム語の所有を表はす表現 | 千田 俊太郎 | 337 |
| 京都大学言語学懇話会 2002年度活動報告 | | 369 |

2002

京都大学
大学院文学研究科
言語学研究室

「京都大学言語学研究」(22号)の原稿募集について

京都大学言語学研究(22号)の原稿を募集します。投稿される方は次の執筆要項によりご提出下さい。

執筆要項

1. **提出原稿** 論文は完全原稿を提出すること。採用論文については後日フロッピーディスク(MOディスク、CD-Rなども可。)を提出する。電子メールでの投稿も可能ですので、ご相談下さい。
 - (1) 原稿枚数: 日本語論文は明朝体 12 ポイント(1行 37 字程度)・1 ページ 35 行程度、欧文論文は 12 ポイント・1 ページ 35 行程度(1.5 スペース程度)で、図表などを含め A4 版用紙 30 枚程度とする。
 - (2) 原稿の余白設定等: 各ページのマージンを上下左右:30、35、30、30mm とる。ページ番号は印字せず、右下隅に鉛筆で記入する。
 - (3) タイトルと氏名: 1 ページ目のはじめにタイトルと氏名(中央揃え)を入れること。タイトルは 14 ポイント太字とする。なお、タイトルの上部には 2 行分の余白を設け、タイトルと氏名の間に 1 行分、氏名と本文はじまりとの間に 2 行分の余白を設ける。
 - (4) 注について: 注は通し番号をつけ、各ページの末尾におく。文字サイズは 10~11 ポイントとすることが望ましい。
 - (5) 要旨: A4 版用紙 1 枚程度の要旨を付ける。要旨は本文と異なる言語で書くのが望ましい。タイトルと氏名の体裁については上記(3)に準ずる。要旨文のはじまりの左上部に「要旨」「Abstract」等と太字で表記し、要旨文のはじまりとの間に 1 行分の余白を設けること。
2. **採否** 原稿の採否については、編集委員会で決定させていただきます。
3. **原稿締切日** 2003 年 8 月 31 日必着
なお、次次号(23号)の締切は 2004 年 6 月 30 日になります。
4. **連絡先** 投稿は下記住所にて受け付けます。
〒606-8501 京都市左京区吉田本町 京都大学大学院文学研究科 言語学研究室
電話/Fax:(075)753-2827 電子メール:KULR@ling.bun.kyoto-u.ac.jp
5. **その他** 採用された原稿及びフロッピーディスク類は返却いたしません。また、 \LaTeX で執筆する場合は、上記の書式に合わせたスタイルファイルを用意していますので、編集委員まで御連絡下さい。なお、抜き刷りの印刷費用は原則として投稿者の負担とさせていただきます。ご了承ください。

編集後記

執筆者を始め、多くの方々のご協力を頂き、『京都大学言語学研究』第21号発行の運びとなりました。この場を借りて厚く御礼申し上げます。

本号より副編集委員長を設けました。今後もよりいっそう充実した雑誌をめざして努力していきたいと存じます。よろしくお願いいたします。

編集委員長

2002 年 12 月 25 日

編集委員長 西村多恵

副編集委員長 白井聡子, 千田俊太郎.

編集委員 安部麻矢, 大浦真, 大崎紀子, 岸田泰浩, 庄垣内正弘, 田窪行則,
西村周浩, 朴永梅, 林範彦, 藤代節, 藤原敬介, 藪司郎, 吉田和彦,
吉田豊.

(五十音順)

発行者 京都大学大学院文学研究科言語学研究室

〒606-8501 京都市左京区吉田本町

Edited by NISHIMURA Tae, SHIRAI Satoko, TIDA Syuntarô, ABE Maya,
OHURA Makoto, OHSAKI Noriko, KISHIDA Yasuhiro, SHÔGAITO
Masahiro, TAKUBO Yukinori, PARK Youngmae, NISHIMURA Kanehiro,
HAYASHI Norihiko, FUJISHIRO Setsu, HUZIWARA Keisuke, YABU Shiro,
YOSHIDA Kazuhiko, YOSHIDA Yutaka.

Published by Department of Linguistics

Graduate School of Letters, Kyoto University

Yoshida Honmachi, Sakyo-ku, Kyoto

606-8501 Japan

Kyoto University Linguistic Research

Vol.21

Articles

| | |
|---|-----|
| STACHOWSKI, Marek: Loanwords in Dolgan (A survey of problem) | 1 |
| ABE, Maya: Two ethnic languages of the Ma'a people | |
| —A sociolinguistic approach— | 25 |
| KOMORI, Junko: Tense and aspect in Kerewe and contact-induced changes | 51 |
| KATSUKI, Hatsumi: On -'enyr in middle Korean | 87 |
| KISHIDA, Fumitaka: On the fictional parts of the Korean text of Hyomintaiwa | 109 |
| SADANOBU, Toshiyuki: Toward a grammar of interaction | |
| —An analysis of Japanese pseudo-evidentials— | 147 |
| OHURA, Makoto: A behavior of instantaneous verb "shiru" | 187 |
| HUZIWARA, Keisuke: A phonetic analysis of Cak | 217 |
| SHIRAI, Satoko: On the person marking system of Geshitsa verbs | 275 |
| HAYASHI, Norihiko: | |
| On the influence of Proto-Lolo-Burmese *? upon Modern Jino | 311 |
| TIDA, Syuntarô: Possessive expressions in Dom | 337 |
| The annual report of Kyoto University Linguistic Colloquium 2002 | 369 |



2002

Department of Linguistics
Graduate School of Letters
Kyoto University